

朝倉駅周辺のまちづくりについて

平成 29 年 10 月 9 号



朝倉駅周辺を、にぎわいの交流拠点とするための取り組みをお伝えします。

朝倉駅周辺整備計画 第2回市民ワークショップを開催しました。

平成 29 年 9 月 30 日(土)、知多市民体育館大会議室にて、朝倉駅周辺整備基本構想の策定に向けて、市民・利用者等の意見やアイデアを取り入れるための市民ワークショップ、『朝倉駅周辺整備計画 第 2 回 未来を語るワークショップ』を開催しました。(参加者：37名)

第 2 回では、第 1 回で提案された『朝倉駅前ですべてのことが実現し、たくさんの人が楽しく過ごせるにぎわいの空間にするために、どんな機能や設備、デザインやルールが必要なのか』を 6 つのテーマに沿って、グループごとに意見交換をしました。第 1 回とはグループのメンバーを変更し、新しい仲間と出会い、新しい意見に触れ合う場となりました。

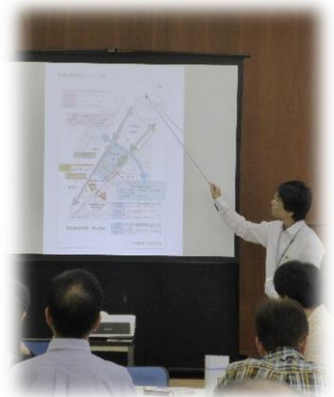
第 1 回の振り返りと第 2 回のねらいを説明

第 1 回の意見交換を踏まえて第 2 回の議論を深めるため、事務局から第 1 回のポイントを紹介しました。また、参加者アンケートに『整備における制約があれば知りたい』、『調査検討報告書の内容は決定事項か』という質問があったため、有識者会議におけるゾーニング検討の経緯を説明しました。調査検討報告書の内容は全てが決定事項ではありませんが、【事業実現性、交通課題の解消、歩行者の安全性】など、事業実施にあたり最低限配慮が必要な事項についてはあらかじめ検討し、これらを踏まえた計画にする必要があることをお伝えしました。

【第 2 回テーマ】

『みんなの“やりたい”を実現する空間づくり』

- ・第 1 回で出された“こんなことやりたい”を実現するために、どんな空間が必要なのかを考えてみましょう。
- ・多くの市民に愛される「自分達の場所」にするために市民にできることは？



他都市の駅前空間の事例紹介



アドバイザーの日本福祉大学、吉村先生から議論を深めるヒントとして、他都市の駅前空間やにぎわい創出に取り組んでいる公共・民間空間の事例が紹介されました。

【吉村先生からのメッセージ】

まちを使いこなすことから、まちを育む

『誰かが作ってくれたモノ』ではなくて、自分たちが使いこなせる空間をあらかじめ考えておくことが大切といった視点や、既存の公共施設や商業施設もアイデア次第でたくさんの人に集まってもらえる空間になり得るといった視点が参加者に伝えられました。

そして、紹介された事例では、これまで難しいと思われていたような取り組みが実現されていることにも触れ、初めから『できない』と諦めるのではなく、『やってみよう』から始めてみようというアドバイスもありました。

『楽しい！使いやすい！居心地のよい空間とは？』

第1回で出された朝倉駅前で行ってみたいことに関する意見を集約して6つのテーマを設定し、グループに分かれてみんなの“やりたい”を実現するために必要となる空間のイメージを、それぞれのテーマに沿って7つの切り口をヒントに議論しました。

グループ	6つのテーマ
A	休憩・交流
B	学び・趣味、文化創造
C	スポーツ・健康
D	娯楽・レジャー、遊び
E	飲食
F	買物・仕事



【7つの切り口】

前半・後半に分かれて2回のグループトークを実施し、異なるメンバーでさまざまな視点からアイデアを出し合うことで、求められる施設や空間のイメージを掘り下げ、形作っていくための意見交換を実施しました。

また、全体発表では、グループトークの成果に加え、アイデアの背景にあるストーリーも参加者に語ってもらいました。



各グループの意見要旨

年齢や性別を問わず、多くのグループで「自然に囲まれ、のんびりできる広場」や「気軽に・多目的に利用できる施設があるといい」という空間・デザインに関するアイデアや、「夜間でも安心して出かけられるような照明がほしい」や「無料で使えたり、レンタル（場所、道具）があると利用しやすい」といった安全性やルールに関する共通の意見が見られました。以下に、主な意見を紹介します。

テーマ	主な意見
休憩・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・自然のにおい、風、芝生など季節感を感じられる心地良い空間 ・机、いすなど使いやすい設備と Free Wi-fi、トイレがあると長時間過ごせる ・一人の時間を楽しめる小ぢんまりとした小スペースも心地良い ・食事や趣味などを通じた交流の場になると良い
学び・趣味 文化創造	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強や趣味の活動など、家事の合間や帰宅時の寄り道など気軽に利用できる空間 ・デザインには知多市らしさも取り入れたおしゃれな空間になると良い ・飲食しても良い学習スペースがほしい ・多目的な活動ができるような施設を手軽に借りられると良い
スポーツ ・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内プールやウォーキング・ジョギングコース、バスケットコートなどがほしい ・緑に囲まれた空間で体を動かし、木陰のベンチやハンモックでくつろぎたい ・気軽に保健師や栄養士の指導を受けられると健康の増進につながる ・予約なしで使えたり、ラケットやボールなどを借りられると良い
娯楽・レジャー、遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・屋台を出せたり、BBQ ができるような広場 ・駅近で無料の気軽に寄れる場所 ・制限が無く（勉強スペースでおしゃべりできる）、それぞれの楽しさを実現できる ・治安の良いにぎやかさ、女性が夜でも安心して出歩ける（照明、警備）
飲食	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズや時間帯によってメニューを変えるなど、柔軟な飲食店 ・知多市の食材を使ったメニュー、誰かに紹介したくなるお店 ・自然に囲まれたゆったりとした空間で食事やお茶を楽しみたい ・食べながら勉強、読書、おしゃべりができる場所（ブックカフェ、勉強スペースなど）
買物・仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・朝市、産直、マルシェなどで市内で採れた新鮮な野菜や手作り雑貨などを買いたい ⇒開催のための開放感のある空間、自然を感じられる空間、飲食できるスペース ・朝早くから夜遅くまでニーズに合わせた営業時間だと嬉しい ・子どもを駅前の保育施設に預けて仕事へ行きたい、学校帰りにバイトしたい



第2回ワークショップを終えて、参加者の声

第2回ワークショップの最後に、参加者のみなさんにアンケートを記入していただきました。多くの参加者は、自分たちが朝倉駅前楽しく過ごしている姿が少しずつイメージできてきたと回答してくれました。その他にいただいた意見のいくつかを紹介します。

学生にやさしい駅前づくりによって、まちを活性化できるのではないか。(40代、男性)

朝倉駅に行ってみたくと思えるワクワク感が感じられた。(40代、女性)

「ほしいもの」と「今あるもの」をつなげるという意見はとてもいいと思った。(10代、女性)

世代によって利用時間帯が異なる。1日中にぎわう場所になると良い。(30代、女性)

何かやりたいことがある時に、朝倉ならできるといふ空間になってほしい。(60代、男性)

ものや場所から“市民にできることは”をふくらませていけると良い。(40代、女性)

サークル活動で他市へ行くことが多い。知多市で活動できるとうれしい。(40代、女性)

今後も朝倉のまちづくりに何らかの形で関わっていきたい。(50代、男性)

第3回では、理想の空間イメージを描いてみます

第2回のまとめとして、吉村先生からは、平日の日中に朝倉駅周辺を利用する可能性のある子育て中のママや高齢者、学校帰りの高校生などが気軽に集まれる場所で、利用者が主体となって活動できる土台を作ることができれば、より多くの人を巻き込むことができるとのコメントがありました。

第3回ワークショップでは、まとめとして、第1回、第2回の議論を踏まえ、これまで話し合ってきた理想の駅前空間や、そこで楽しい時間を過ごしている人たちをイメージする写真やイラストなどを持ち寄って、具体的な駅前空間を描いてみます。



《次回開催案内》

知多市 朝倉駅周辺整備計画 第3回 未来を語るワークショップ

日 時：平成 29 年 **10 月 14 日 (土)** **9 : 30 ~ 12 : 00** (受付 9 : 15 ~)

会 場：知多市民体育館 2 階 大会議室

テーマ：『みんなで創る 理想の空間の未来図を描く』

ご意見・問合せ 参与室(都市計画課)

電 話 0562-33-3151

E-MAIL : sanyo@city.chita.lg.jp